令和7年度 第1回 静岡市上下水道事業経営協議会 会議録

1 日時 令和7年5月30日(金) 10:00~16:00 ※午後は参加任意の施設見学

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室 外

3 出席者

(1) 委員(五十音順、敬称略) 9人出席/11人全体

大石委員、狩野委員、鈴木委員、竹内委員、中井委員、橋本委員、濱田委員、
原田委員、横山委員

(欠席) 小泉委員、堀田委員

(2) 上下水道局職員

遠藤公営企業管理者、大石上下水道局長、

花村局次長兼経営管理部長、石野水道部長、藤田下水道部長、

川口上下水道総務課長、小林参与兼上下水道経営企画課長、水島上下水道経理課長、秋山参与兼
お客様サービス課長、

石原参与兼水道計画課長、本多水道建設・維持課長補佐、角谷水道施設課長、山本中山間地水道課
長、浅井水質管理課長、山下水道事務所長、鎌田水道維持担当課長、新庄清水水道施設担当課長、
望月水道部主幹

石上参与兼下水道計画課長、松田下水道建設課長、稲葉下水道維持課長、山本下水道施設課長、
杉山下水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、山上清水浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

小林参与兼上下水道経営企画課長 外5名

4 傍聴者 なし

5 内容

(1) 開会・オリエンテーション

① 静岡市公営企業管理者 挨拶

【遠藤公営企業管理者】

- ・水道事業と下水道事業の運営に必要な経費の多くは、使用者の皆様からいただく料金・使用料でまかなわれている。
- ・近年は、人口減少に伴う料金・使用料収入の減少に加え、施設や管路の老朽化、頻発化・激甚化する気象災害、物価高騰など、経営を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、将来にわたって持続可能な事業としていくためには、これまで以上に適切な経営判断が求められる。
- ・そのような中、令和6年1月に発生した能登半島地震を踏まえ、上下水道一体で耐震対策に取り組むこととし、水道の取水施設から災害拠点病院や避難所などの重要施設を経由して、下水処理場までの「線的耐震化」を進めている。

- ・この対策に要する総事業費は、概算で1,700億円程度を見込んでおり、投資・財政計画についても順次見直していく必要がある。
- ・委員の皆様には、こうした私どもの取り組みに対して、多様な観点からご意見をいただきたい。

② 委嘱状交付・委員紹介

※委嘱状は代表者1名にのみ手渡し
遠藤公営企業管理者⇒原田委員へ
事務局から委員を紹介。

③ 会長選出

※附属機関設置条例第6条 委員互選による

濱田委員（市民委員）から鈴木委員（龍谷大学 経営学部教授）を推薦

【濱田委員（市民委員）】

- ・この経営協議会では、上下水道事業の企業経営、料金や使用料などについての意見を委員でまとめていくことになる。この経営協議会において、議事進行のご経験も豊富であり、経営に関する見識をお持ちの鈴木委員を推薦したい。
→委員からの異論なく、鈴木委員を会長に選出した。

④ 会長挨拶

【鈴木会長】

- ・今回から新たに5名の委員が就任される。
- ・最近、静岡だけでなく、全国いたるところで、水道管が破裂している。私の勤務地の京都でも街のど真ん中で水道管が破裂して、大きなニュースとなった。専門家の方は、毎日のように起きているというが、世の中の人たちはあまりそういうものを目にする機会はない。埼玉でも大きな事故があった。
- ・いろんな原因が考えられるが、去年からの議論に引き続き、管路の耐用年数の問題が非常に大きいと思う。
- ・先ほど遠藤管理者からお話もあったが、能登地震の経験も踏まえて耐震化というものも実施していかなければならない。
- ・様々な課題に直面しているのが現状かと思う。この協議会はこれまでも重要な位置づけであったと思うが、さらに今後そういった問題に取り組み、様々な立場の委員の見地から御意見をいただいて、少しでも静岡市上下水道事業に対して貢献したいと考えている。
- ・どうぞ皆様よろしくお願いたします。

⑤ 副会長指名

※附属機関設置条例第6条第4項 会長からの指名による

鈴木会長から小泉委員（静岡産業大学 経営学部教授、今回は欠席）を指名。

⑥ 上下水道局職員紹介

資料2（令和7年度 静岡市上下水道事業経営協議会 職員名簿）のとおり

公営企業管理者 退出

(2) 議事

① 協議会の目的・スケジュール等について

事務局から説明

資料3 令和7年度静岡市上下水道事業経営協議会 開催スケジュール

資料4 上下水道事業経営協議会の目的等

【鈴木会長】

新しい委員の皆様も、どんな些細なものでもよいので疑問や意見が生じたらぜひ遠慮なく意見を。

② 令和7年度 当初予算の概要・主な実施事業

事務局から線の耐震化、上下水道経理課長から予算概要について説明

資料5：令和7年度 当初予算の概要・主な実施事業

【鈴木会長】

- ・初めての委員もいるため、簡単に解説をする。
- ・水道事業、下水道事業に係る費用は基本的に利用者が負担する。これを受益者負担という。
- ・これは民間企業と公営企業の大きな違い。民間企業は利益を獲得するのが第一の目的で、獲得した利益を株主などに分配する。一方で公営企業は、儲ける必要はない。よく日常収支トントンなどというが、これが一番望ましい。
- ・水道事業と下水道事業で入ってくる収入は主に水道料金、下水道使用料。受益者負担の原則で考えれば、この料金あるいは使用料をもってすべて賄うのが理想。
- ・一方で、コストが相当かかっている。市でもいろんな部署でコスト削減が様々進められているが、ある程度限界がある。
- ・それに対して、管路更新や耐震化に莫大な建設改良費というお金がかかる。
- ・それも今までの予算とは違って、例えば大学なんかで建物を建てるのに予算から1.5倍もかかるとか、下手したら2倍なんじゃないかというぐらい資材費や労務費が値上がりしている。どんどんコストが増えている。上下水道においても悩みの種だと思う。
- ・それでやむなく取ってきた手段が、企業債。特に下水道企業債は多く、静岡では下水道使用料収入に匹敵するぐらいの企業債を発行している。
- ・これは個人でも会社でもそうだが、要は、資金繰りがうまくいかないから、一つの手段として借り入れる。決して駄目なわけではないが、消極的なものである。
- ・ただし、浸水対策は受益者負担とはまた別で、そこの住民全体に影響を及ぼすため、一般会計から資金投入、要するに税金投入しても公平性は保たれる。
- ・こういう認識を持っていただきたい。
- ・先ほど説明していただいたが、これから線的に耐震化をやっていかなきゃいけないが、賄えるのかということ。
- ・今年度そういった議論が必要になってくると、そこでもしかしたら、料金・使用料がこのままでいいのかどうかっていうことも、議論の対象になってくると思う。

【中井委員（市民委員）】

- ・非常にわかりやすかった。

③ 水道料金・下水道使用料の概要等

資料8 水道料金・下水道使用料の概要等

【大石委員（静岡経済研究所）】

- ・知らなかったことが多くあった。従量料金、これが使えば使うほど単価が高くなるというのは不思議な感じがしたが、これは一般的にそういう傾向にあるものか教えていただきたい。
- ・また、給水人口と排水人口で差があると説明の中にあっただが、この差は何か。2点教えていただきたい。

【水島上下水道経理課長】

- ・まず1点目、他都市でも一般的には使えば使うほど高くなる。施設を大きくしなければならぬなどといった理由で、大口利用者の方に負担していただく。
- ・2点目、エリア的に下水道ではなく、農業集落排水であるとか、静岡市の下水道事業の範囲外というのものがあ、給水区域と排水区域の違いがある。

【大石委員（静岡経済研究所）】

- ・利用料の使用区分、1立米から10立米とか、そういった区分はいずれの都市も共通なのか。

【水島上下水道経理課長】

- ・都市によって差はある。必ず10立米とか20立米で区分されているというわけではない。細かい区分の都市もあれば大まかなところがあるということで把握している。

【大石委員（静岡経済研究所）】

- ・その部分と単価の傾斜については各地方自治体で検討の余地があるという理解か。

【水島上下水道経理課長】

- ・ご指摘の通り、事業規模であるとか、都市によってまちまちということになっている。

【鈴木会長】

- ・料金の逡増に関しては、節水意識を持ってもらうという理由によるものと認識していたが、それはないのか。

【水島上下水道経理課長】

- ・結果として大口の方に負担が増えていってしまっているという説明で、節水意識を持っていただくためという、もちろんそういう理由もある。

【狩野委員（市民委員）】

- ・令和2年度の協議会委員であった際に、水道料金改定があった。非難がないか心配だったが、市民の皆様は非常に好意的に解釈していたよう。今後の（料金改定等の）見通しはどのように考えているか。令和2年度のときは、14.8%値上げだったが、今後の見込みとしてはどうか。

【水島上下水道経理課長】

- ・水道料金に関しては令和7年度から料金改定をするということを予定していたが、その4年

間の算定の期間の中でまだ上げる必要はないということがあり、料金改定を見送った経緯がある。また、先ほどから説明している線的耐震化について進めていくということで、方針が変わったということもあるため、それにかかる経費、近年の物価高騰等を含めて検討している。投資計画の見直しと併せて、どのぐらい資金が必要になるかと検討している状況である。

【鈴木会長】

- ・私からすると、きちっと4年ごとに検討するっていう姿勢をずっと示してきたわけで、なぜ去年やらなかったのか、という思いがある。ただ、今回のこの協議会においても、そういった料金の問題をどうするのかということについて、事務局の方からご提案してくださると思っている。

〈連絡事項（事務局）〉

- ・午後の施設見学について説明
- ・資料9は、令和7年6月13日（金）までに事務局宛て提出いただきたい。
(いずれの資料も記入は任意、提出は必須)

(3) 施設見学（バスで移動）

- ① 門屋浄水場
- ② 城北浄化センター

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

(署名) _____ 鈴木 学 _____